

板橋区男女平等参画及び多様性尊重に関する意識・実態調査結果について

1 調査概要

男女平等参画及び多様性尊重に関する区民及び事業所の現状や意識等を把握し、「男女平等参画社会実現のための板橋区行動計画 いたばしアクティブプラン2030」策定の基礎資料とすることを目的に、「板橋区男女平等参画及び多様性尊重に関する意識・実態調査」を実施した。
今般、調査結果がまとまったので以下のとおり報告する。

	区民調査	事業所調査	中学生調査
調査地域	板橋区全域		
調査対象	満18歳以上の区民2,000人	区内の従業員5人以上の事業所1,500か所	板橋区立中学校8年生全員
抽出方法	住民基本台帳による無作為抽出	無作為抽出	全員
調査方法	郵送配布・郵送またはインターネットでの回答		インターネット回答
調査期間	令和6年6月17日～7月14日	令和6年6月10日～7月7日	令和6年6月17日～7月14日
回収結果	有効回収数:582票 有効回収率:29.1%	有効回収数:450票 有効回収率:30.0%	有効回収数:1,387票 有効回収率:44.3%
前回調査対象(令和元年度)	満18歳以上の区民2,000人	区内の従業員5人以上の事業所1,000か所	板橋区立中学校8年生全員(令和3年度実施)
調査内容	1.男女平等に関する意識について 2.仕事について 3.あらゆる分野における女性の活躍推進について 4.ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について 5.地域活動・社会活動について 6.防災について 7.女性の生涯を通じた健康づくりのための支援策について 8.困難な問題を抱える女性への支援策について 9.DV(配偶者・パートナーまたは交際相手からの暴力)について 10.ダイバーシティ&インクルージョン(多様性の受容)について 11.性的マイノリティについて 12.男女平等参画社会の実現に向けた取組について	1.女性活躍、女性の登用・雇用について 2.働きながら育児・介護等を行う従業員に対する支援について 3.ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について 4.ダイバーシティ&インクルージョン(多様性の受容)について 5.ハラスメント対策について 6.男女平等参画社会の実現に向けた取組について	1.固定的性別役割分担意識について 2.男女の地位の平等感について 3.デートDVについて 4.ダイバーシティ&インクルージョンについて 5.性的マイノリティについて 6.男女平等・多様性に関する用語の認知について

2 区民調査

(1)固定的性別役割分担意識についての賛否
報告書掲載ページ:P15～17

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、“賛成(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)”の割合が19.6%、“反対(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)”の割合が64.1%となっている。
前回調査と比較すると“賛成”の割合は8.2ポイント減少しているのに対して、“反対”の割合は11.2ポイント増加している。

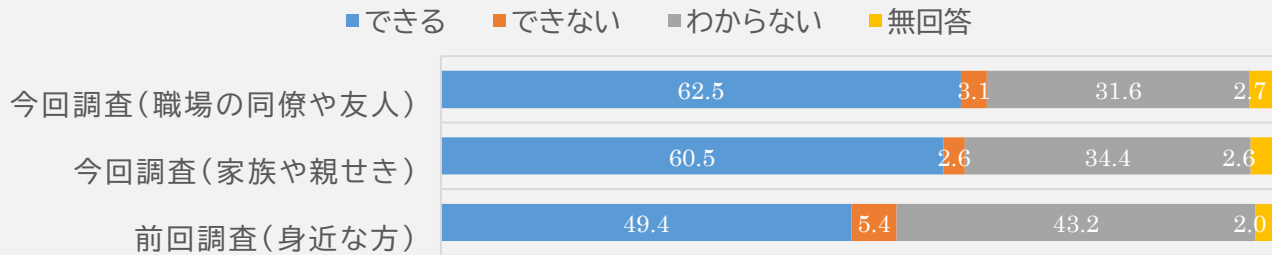
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように感じていますか。



(2)性的マイノリティであることを打ち明けられた場合の対応
報告書掲載ページ:P146～149

職場の同僚や友人に、性的マイノリティであることを打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することが「できる」と回答した人の割合は、62.5%、家族や親せきに、性的マイノリティであることを打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することが「できる」と回答した人の割合は、60.5%となっている。
前回調査時は、「職場の同僚や友人」、「家族や親せき」と限定せず、「身近な方」と表現した問であるが、「できる」の割合は、いずれも前回調査時(49.4%)を上回っている。

性的マイノリティであることを打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができますか。



3 事業所調査

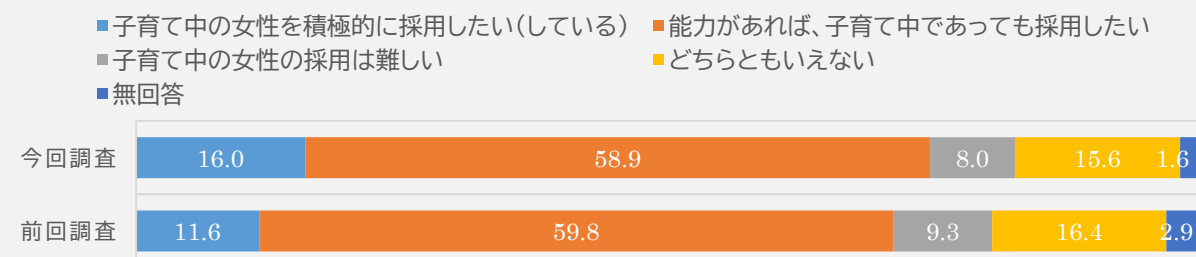
(1)子育て中の女性の正社員採用に対する意識

報告書掲載ページ:P184～185

「能力があれば、子育て中であっても採用したい」の割合が 58.9%で最も高く、「子育て中の女性を積極的に採用したい(している)」(16.0%)と合わせて全体の 74.9%の事業所が子育て中の女性を正社員として採用することを肯定的に捉えていることがわかる。

前回調査と比較すると、「子育て中の女性を積極的に採用したい(している)」の割合は、4.4 ポイント増加している。

貴事業所では、子育て中の女性(小学生までの子を持つ女性)を正規従業員として採用することについて、どのように考えていますか。



(2)5年前と比べたダイバーシティ&インクルージョンの状況

報告書掲載ページ:P230

「かなり多様化している」の割合が 6.9%、「ある程度多様化している」の割合が 23.3%であり、人員構成が多様化していると感じる事業所が 30.2%となっている。多様化を感じてない事業所(「あまり多様化していない」と「多様化していない」の合計)の割合が 65.1%と6割台半ばを占めているが、前回調査と比較すると、9.5 ポイント減少となっており、徐々に区内事業所の多様化が進んでいることが読み取れる。

貴事業所では、ダイバーシティ&インクルージョン(人材の多様性)に関して、5年前と比べて、人員構成(性別、国籍、雇用形態など)がどのくらい多様化していると感じますか。



4 中学生調査

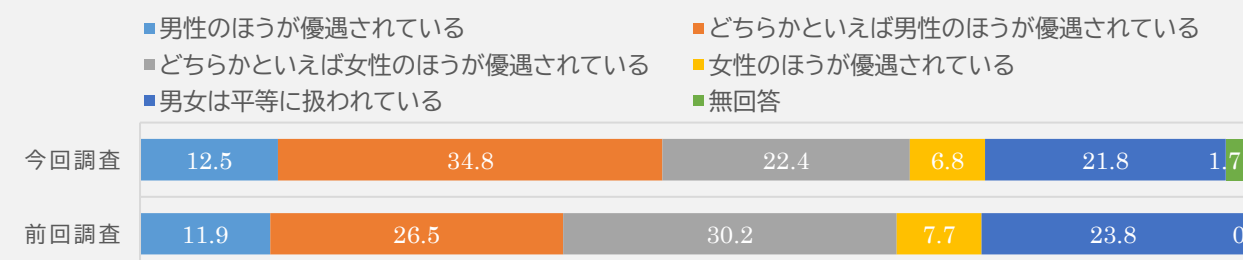
(1)社会全体における男女の地位の平等感

報告書掲載ページ:P249～250

“男性のほうが優遇されている(「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計)”が 47.3%と半数近くになっており、前回調査(38.4%)と比較して、8.9 ポイント増加している。

また、“女性のほうが優遇されている(「女性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の合計)は、29.2%であり、前回調査(37.9%)と比較して、8.7 ポイント減少している。

社会全体における男女の地位の平等についてどのように感じていますか。



(2)デートDVの認知

報告書掲載ページ:P253～254

「言葉も意味も知っている」が 39.1%、「意味は知らないが言葉は知っている」が 21.8%であり、言葉を認知している割合は、全体の 60.9%となっている。

前回調査時は、「言葉も意味も知っている」が 20.0%、「意味は知らないが言葉は知っている」が 17.9%であり、それぞれ、19.1 ポイント、3.9 ポイント増加している。

あなたは「デートDV」(交際相手からの暴力)という言葉を知っていましたか。

